

一月の県弓連の評議員会において再度会長に推薦されました。その責任の重大さを痛感しているところであります。力不足ではありますが弓道発展のため、一生懸命努めていく覚悟であります。

社会の現状は底の知れない経済不況による雇用の不安、不安定な政治情勢、振り込め詐欺や凶悪犯罪の増加と、先の見えない暗い社会となっております。

このような社会において弓道の礼の心がますます求められ、期待される現状です。弓道を通して明るい社会の形成のため、希望を持って前進していかねばなりません。会員各位のご支援とご協力を心からお願いたします。

この二年間において、会計処理規程の制定、県弓連の規約および旅費支給規程等の諸規程の整理、並びに事務所費、事務機器の借上げ料の見直しを行い、県弓連の事務運営の効率化のための基準を設けることができました。

今後の課題として、競技運営要項の制定です。制定された競技運営要項を基に、県弓連の主催する各種大会を、競技部が主体となって整然と運営できるように指導していききたい、そして各地で開催される射会も、県弓連に準じて運営できるように広めていきたいものです。また二十三年に開催される、北信越国体の運営にも役立つものと思えます。総務部では、スポ

ーツ指導員の資格取得に対し、具体的に検討を加え推進を図っていかねばなりません。昨年指導部で実施した特別審査に対する、特別講習会は多くの収穫がありました。的を絞った指導は、受講者も熱心に取り組むこととなり、相乗効果となつて良い結果を得たものと思えます。指導部の計画した講習会に、積極的に参加し射法射技の基本を身につけ、それぞれの目標に向かって修練に励むことを願っています。審査部では審査の公正な運営を図るとともに、昨年一部で実施した、審査判定会議の迅速化と正確な処理について、一層徹底していかねばなりません。ジュニア部の課題は二十四年に開催される、全国高校総体弓道大会に向けて諸準備を進めることでもあります。

本年は隣県の新潟でトキメキ国体が開催されます。強化部では二月から県下四地区で、指定選手の強化練習が始まりました。最近の国体では少年の活躍に目覚ましいものがありました。そのため各地区とも少年男女が国体を目標に人気が高まり、目を輝かして強化練習に励んでいます。本年は一チームの出場権をかけて、北信越四県で争うこととなり、厳しい戦いとなります。成年女子は近年になく良い選手が揃い、期待の持てる種目となってきました。成年男子は、力がありながら、昨年は予選で敗退しました。その悔

しい思いが強化練習に現れており、大変好調で成果が上がっています。本年は期待して良いと思います。広報部はホームページ担当が交代し、「弓道なごの」の編集とともに新しい感覚が期待されることです。

一方年間行事も、全弓連、北信越連合会、県弓連と非常に多くなっています。特に本年は十月に全弓連の六十周年記念行事があり、記念式典、功労者表彰、記念祝射などが計画されています。この中で各事業部の実施計画を、着実にしかも効果的に推進するため、会員皆様の積極的な協力をお願いするところであります。そして先輩を始め、先達の先生方が築いてきた、「弓道長野」の力を少しでも向上させなければなりません。強化部で指導する国体指定選手の強化で、射技の向上を図るとともに、底辺の拡大を目指すこともその一つです。また指導部が計画している指定選手の強化も、全日本選手権で活躍できる選手の育成であり、若い弓道人の育成につながるものと思えます。

最後に県弓連発展のため会員の皆様には、講習会や、審査会、競技会等に積極的に参加して射技の向上と体配の修練に励み、基本に徹した正しい弓道を修得し、選手権や国体に、また昇格昇段に、その力を発揮することを強く期待してご挨拶といたします。

評議員会報告

事務局 北村 弥昌

去る一月二十五日、長野県弓道連盟平成二十年度評議員会が塩尻市中信会館にて開催されました。

会長挨拶に続いて須高支部の、永藤聡評議員を議長に議事が進行された。議事の内容は次のとおりです。

○平成二十年度事業実施報告

○平成二十年度会計決算報告

○会計監査報告

一括説明の後、質疑、承認された。

○各部の中に委員会の設置について規約の改正が、提案され承認された。

○表彰規程、旅費支給規程の一部訂正についても、承認された。

○平成二十一年度事業実施計画

○平成二十一年度会計予算案

提案、質疑、採決の結果承認された。

続いて役員改選に移り、選考委員を選出し、選考委員長の提案により次のように役員が選出された。

会長 山川 茂樹(留任)

副会長 土川 俊市(留任・指導部長兼務)

外 蘭 公毅(新任・理事長兼務)

清水 克也(留任)

宮下 重敬(留任)

高橋 康人(新任・高校選出)

監事 田村 脩(留任)



井垣 貴夫(留任)
土川 俊市(指導部)

平野 英孝(競技部)

北嶋 晋(強化部)

北村 弥昌(総務部)

降旗 昭雄(審査部)

征矢 憲(広報部)

山口 安彦(会計)

山田 雅亮(ジュニア部)

理事 小池梨枝子

百瀬 正

山浦 博

松澤 英男

重田 功

丸山 仙子

掛川 渡

新役員挨拶、退任役員挨拶、支部長交代報告で議事終了。

報告事項として、

○平成二十四年インターハイ全国大会弓道競技開催につき、(ブロック開催ではあるが、今からその準備に入る)ジュニア部で計画推進に当たるが、

開催地域はもとより、多くの方々の

ご協力をお願いしたい。との要請があった。

閉会の挨拶で評議員会は無事終了した。

各事業部より

指導部長 土川 俊市

平成二十一年度に計画いたしました講習会や研修会は前年度に計画実施いたしました時期や種別と同様の形で行うこととなりました。

指導部では講習会や研修会をどのような内容にすれば実効性があるか、前年度に開催された講習会や研修会の都度受講者の反応と反省を含め報告書として提出を受け、それらを基に検討してきました。

春季・秋季講習会が二班に分けて行うように、ある程度目的意識を明確にして行うべきであると考えました。

従って春季・秋季講習会は前年度と同

じ考え方で実施されます。

特に今年度は四段受有者から六段錬士間の層の底上げに力をいれて参りたいと思います。

そのことは四段受有者は連合審査で五段を目指し、五段受有者は錬士を、六段錬士は教士をと正に勢いに乗せて飛躍すべき世代であります。

これこそ県弓連の力の底上げになると思います。

割合に余裕のあります高段者の方々と講習会や研修会に参加された時、どうしても低位者は遠慮がちとなりますので、そのような時こそ暖かい目をもって背中を押してほしいと思います。

今年の指導内容の主眼は山川会長の年頭のあいさつにありましたが、それぞれ日々体配の修練に努めておられることでしょうか、「基本動作」と「動作の注意点」をマスターして、その動作の意味、威儀を心の中から表現できるまでになつてほしいものです。

弓矢をとる前の心構えや、弓矢をとつてからの所作、行動が形だけであつてはならないのです。

礼記射義に「射は進退同還必ず礼に中り、内志正しく、外体直して、然る後に弓矢を取ること審固なり。…」とあります。

弓道(武道)では「礼」に始まって

「礼」に終わるとありますが、弓矢を取る前にあるべき心構えをもう一度確認すべきではないでしょうか。

「心正しく身を修めるは「礼」の本なり」とあります。

教本にあります、正しい「礼」を息合いと行動は、そして心の「礼」は相手に対して恭敬・親愛の心を形に表すことである。誠の心のない形だけのものではない。「礼」にならない。

「礼」は深い教養が表れ、威儀あり典雅な動作であることが肝要であると論されています。

つまり道場に入場する時、先頭者は三息の「礼」を行い、次の射手以下は二息の「揖」を行うと解説されています。

息合いや動作のみにとらわれていないか、考え考えの動作から心を表す動作にしていきたいと思います。

もう足の運びや息合いは卒業して、真の「礼」の意味を理解して行動できるようにしてほしい。

「礼」の対象が何かを理解され、対象と正対し、気持ちを表すことができ、品格も表れることになりました。

教本の「礼」の項から例えて申し上げましたが、日々の稽古である程度の身のこなしを確立されたうえで、講習会や研修会で更なる技量の向上をはかる機会としてほしいと思います。

積極的なご参加をお願いします。

審査部長 降旗昭雄

本年度より大きく変わったものに、参四段の審査会の新設があります。昨年までは式段以下審査と四段以下審査があり、四段以下審査は各地区で年一回計四回開かれていました。そして四段以下審査は無指定から四段までという幅広い受審者が対象でした。

それが今年からは参段四段のみ対象の審査会を年二回、春秋の開催としました。開催時期、地区を春季は中南信地区で、秋季は東北信地区としました。

今年は春季の中南信地区は五月十七日松本市弓道場で行います。また秋季の東北信地区は十一月十五日上田城跡公園弓道場で開催します。

式段以下審査会は従来と同じで無指定から式段までを対象に各地区で行われ、年間十二回開催を予定しています。

参四段を式段以下と切り離して審査を行う目的は、四段審査は県内審査での最高段位ですので緊張感有る中での審査会にしたいということにあります。

もちろん式段以下審査に緊張感が無いと言っているわけではありません。「より高い緊張感」のある審査会が目標です。

参段以上ともなると式段以下とは違った意味での射法、射技、体配などが求め

られます。特に四段受審者はご存知のように和服用が望まれており、受審者は射法、射技ばかりでなく和服用での体配の修煉もすることで、日本弓道が求めている「美」の表現という面もあり、より感動的、緊張感が漂った審査会が必要ではないかと思えます。

春、秋の開催としたのは、受審したが残念な結果であったとしても半年間の期間があるので充分稽古に励み、再度チャレンジしていただきたいと思っているからです。

事前講習会については各地区で行われていた式段以下対象の講習会は従来どおり開催されますが、参四段受審者を対象とした事前講習会というものは考えておりません。

県弓連の指導部では式段から四段受有者を対象に「中級者伝達講習会」を毎年各地区で開いております。是非この伝達講習会に参加し事前講習会とは違った雰囲気での講習を受け、審査に役立てていただきたいと思えます。

「事業実施計画」の内容の見直しを行いました。従来の実施計画で書かれていた審査受審に関するもの、審査運営に関するものとを区別し受審に関する内容だけを掲載し、会員の皆さんがより理解しやすくするようにしました。

次にID番号（以下IDと称します）

について説明します。

現在審査を受けるときは全員「審査申込書」のID欄に各自のIDを記入することになっています。

全日本弓道連盟は「会員管理システム」というシステムがあり、IDを用いて全会員の管理をしています。そしてこのIDを基に審査を始め各種大会の管理運営を行っています。

本県も昨年から県内審査には、このIDを本格的に導入しました。その結果受審者名簿等の作成、合格者登録、認許状作成の迅速化などを図ることができました。

審査申込書のID記入も昨年度は事業計画書の会員名簿にIDが記載された結果、殆ど一〇〇%近くとなりました。

IDには最初の二桁が地連コード（長野県は24）を意味するだけで、三桁目以降はコンピュータが機械的に割り付けたもので意味は持っていません。IDは会員一人ひとりに割り当てており、他の人と同じということはありません。そしてこのIDは生涯変わることはなくホストコンピュータに記録されています。

ではこのコンピュータには何が登録されているかといいますと、皆さんが審査を受けられる時記入する「審査申込書」の氏名、生年月日、現在の称号、段位、取得日など内容は殆ど同じです。そして

審査に合格すると自動的に新しい称号、
段位と取得年月日、会場名が書き換えら
れます。しかし審査申込書に書かれてい
る「弓歴、受講歴、役員歴」などは記録
されていません。

休会とか卒業後中断しており再開した
がIDを忘れてしまったときなどは「氏
名(旧姓)、生年月日」を所属支部長に申
し出てください。支部長からの連絡によ
り事務局で容易にIDを検索することが
できます。

これらの内容は個人情報に関わるもの
なので、何重にもチェック態勢が設けら
れており、関係者以外は閲覧、操作はで
きませんのでご安心ください。

最後に審査部としては「基本に忠実な
正しい弓道を求めて、日頃修練に励んだ
成果を、審査会の機会にその力を発揮し
て、また新たな目標を目指して稽古に励
むこと」を願っています。

競技・強化・ジュニア・広報の各部署は次号掲載



新任 新副会長 高橋 康人

このたび副会長の
重責を担うこととな
りました県高体連弓
道部長の高橋康人と申します。もとより
そのような大役をこなせる器ではござい
ませんが、山川会長先生を始めとされる
会員の皆様方の絶大なるご支援を賜りな

がら牛歩の如く一歩づつその任を果たさ
せていただきたいと存じます。

さて、平素より県内の中高生や教職員
が大変お世話になっておりますことをこ
の紙面をお借りして、改めて御礼申
し上げます。年々弓道に興味を持つ生徒
の数は増え続けており、それに伴う様々
な課題も出てきております。高等学校に
おいては施設の充実と指導者の養成が重
要な課題となっております。施設の面
は、既設道場の老朽化や、未だ道場の無
い学校もあり、県への要望を含め、具体
的な対応が急務となっております。また、
指導者養成につきましては県弓連の全面
的なご支援を賜り、毎年教職員講習会を
開いていただいておりますことは本当に
ありがたいことであり、平素の弓道部活
動に大いに活用させていただいておりま
す。また、平成二十四年度の高総体が
北信越ブロック開催となり、弓道競技は
長野県で開催されることが、北信越高体
連において決定されており、その開催準
備が今後の最大の課題となっております。
次に中学校においても新学習指導要領に
おける武道の必修化の流れの中で、弓道
がどう位置づけられるべきかという大変
大きな課題が浮かび上がってきておりま
す。また施設や指導者の面においては、
高校以上に深刻な状況下にあるのではな
いかと思っております。

いずれに致しましても、弓道という奥
行きのある武道に子供たちが深い関心を
抱き、「心技体」の三位一体の人間形成を
追求する中で生まれる意義あるその精神
性は、価値観が益々多元化し、複雑怪奇
になる一方の現代社会において一人ひと
りの子供たちの「生きる力」を支える根
幹になるものと確信しております。
今後とも会員の皆様方には大変お世話
になりますが、よろしくご指導ご支援の
程、改めてお願い申し上げ、ご挨拶
とさせていただきます。

退任 前ジュニア部長 古澤 金藏

多くの皆様方に支えられ、ジュニア部
長を務めさせて頂きました。誠にありが
とうございました。

ジュニア部は、高体連の組織より選出
されている役職です。私は平成九年から今
年まで十二年間仕事をさせて頂きまし
た。

ジュニア部の事業は、四年前より中学
生大会の運営を担当することになりました。
た。八月の全国中学生大会へ向けて、塩
尻市の道場をお借りし、七月上旬に予選
会を位置付けました。また高校選抜予選
会は、八年前の第十九回の大会から、十
二月に長野県予選会を開催しました。そ
れ以前までは、高校新人大会の結果で、
全国選手を決定していましたが、県連の

先生方の大変なご理解をいただきまして、
選抜予選会を開催することができるよう
になりました。また多額の大会経費をご
援助いただいたようになりました。

今回の県連役員改選で、ジュニア部の
担当は終了しましたが、高体連での仕事
は、もう一年間残っています。今年六月
には、当番県として北信越大会を長野市
で開催することになっています。高体連
弓道専門委員長として、最後の大事な
させていただきます。また平成二十四年
には、全国インターハイの弓道競技が、
長野県で実施することになります。県下
二八〇〇名の高校生が弓道に取り組み、
高校弓道界も益々飛躍していつて欲しい
ものです。

今回はひと区切りの状況です。六十歳
の還暦を迎え、弓の稽古により一層の取
り組みと、皆様方と一緒に、県弓
界の発展にお手伝いをしていく所存です。
今後ともよろしく願います。

退任 前競技部長 大蔵 務

立春とはいえまだまだまだ寒さ厳しい折、
県弓連会員の皆様にはご健勝のこととお
喜び申し上げます。

このたび、常任理事、競技部長を退任
することとなりました。
一期二年間という短い間ではありまし
たが、これも一重に県連会長先生や、各

理事の先生方、各支部長さん、地区の会員、そして競技部員の皆様の協力と御支援を頂き、微力の私が職務を遂行できました事につきまして、心から御礼申し上げます。

ありがとうございます。

長野県弓道連盟がますます発展されることを祈念して、退任の挨拶とします。

前号からの続き

投稿

弓と書のこと

上小支部
練士五段 両角 喬男

竹林派の書の「弓稽古人常々の心得」と云う所にも「弱き弓にて稽古すべきこと」「強き弓を引くべきこと」つまり、弱い弓で射技射法射型を早く覚えること、また強き弓を引くことで自分の弓力上げてゆく事も必要だと云われて居りました。

また竹林派中学集と云う書には第三条強弱の事、強弱の事射形に限りて萬事にある儀也 云々 去れども中り行事には弓の強弱を専らにす。

註一、弓の強弱というは品にあり、是は中りに余力の弓を好むは不覚を招く所也。力に相応の弓を用うる事、上手の至る所なりと云う様に記されて居ります。貴兄の場合やはり左手角見が利かぬ左肩

根が上ると云う様な自覚的なものが御ありでしたならばそれは無理だと思えますのでやはり弱い方を私はおすすめ致します。但しそれはあくまで射法(正しい)を身につける目的であつて巻藁等ではやゝ強めのものをお引きになって御自分の弓力をお着けになる事もまた大切です。

弱い弓で自分の意志通りに的中を得られる程度に至つたら更に気力、心力の充実を求めて行く一つの要素としての弓力を上げてゆく事も是非貴兄の弓の内容を深める為にはまた重要な事と存じますが、弓には無理は絶対禁物です。離れを強く見せるには弓は強いが良いと思はれますが、これは強いと云うより荒いと解すべきだと思ひます。

迫力があると云はれますがこれは荒いと強いとの区別の出来かねる場合もあると云う事も解つて頂き度いと思ひます。射の終わった後に万人に感じさせる迫力が欲しい、それには自分の心気の限界にまで押し進んだ末に完全にその昂揚された心気そのまゝの射技が表現されなければならぬのではないのでしょうか。

次に私の体験した事を少し書いてみましょう。私は昭和十八年に戦争にかり出されまして二十四年に帰国しました。その間六年余でしたが戦前の弓と云うものは強い弓を引く事に専念致しましたので当時私は六分四厘(二十五、六K)のも

のを引いて居り、帰国致しました時は体力も相当落ちて居りましたが、体に合った道具を選ぶほどの余裕ありませんでしたので、昔引いたと云う気持ちだけで手持ちのものを無理をして引きました。それが二、三年程して出た病癖ががたがたと揺れ動く、会もなにもない納まるると云う事のないような弓となりまして以来二十年それに悩まされて今日に至つたと云う苦しい経験をもつて居りますので絶対無理のある強い弓は人にも自分にもさけさせて居ります。然し乍ら弱弓で中りだけを求める遊びの弓であつてはならない。

貴兄の場合年令の点から見ましても十八〜二十K位までは充分に射こなせるものと思はれますので射技の向上とともに弓力をあげられて行く事もまた必要な事です、それには是非五のつぎは六であり六の次は七でありであつて欲しいものです。五の次に急に八を求めたり十をおとりにならない事を望みます。

時に当たつては弓を強めますと一時的に的中が増すものですが、これは弓によつた中であつて射技によつた中ではありませんので射形等に必ず無理筋が見られる様になりますので一歩一歩の積み重ねによる実力であるように祈念致します。大変とりとめもない事で御質問に答える事が出来たかどうかと思ひますが取

り急ぎ無理な弓をお引きになつてはと思ひましたので書きました。御判読頂けましたら幸と存じます。

いづれ御拝眉の折などに、尚私で出来る事でございますればいつでも御聞かせ下さい。私のつたない経験の中で少しでも皆様のお役に立てば私の一番嬉しい事の一つで御座いますので御遠慮なくどうぞ。

乱筆多謝 村田弘美拝

以上右の先生から届いた二十年以上前の御手紙の御教導が嬉しく有難くて現在も私の宝物の一つとして大切にしております。弓道にしても書道でも道は近くにあります。弓道にすれば遙(はるか)なかりて求むれば遙(はるか)なかりて完成と云うものはないと思ひます。然し良い指導者良い先輩や友人が得られる事はその人達にとつて幸せな素晴らしい人生を送る事が出来るものと思ひます。



指導力向上指導者講習会に参加して

杉田 博

二月七、八日の二日間全弓連中央道場・至誠館道場で、平成二十年度指導力向上指導者講習会が開催され、全国から六十三名が参加。長野県からは外菌先生と私が受講させていただきました。

鈴木三成全弓連会長を筆頭に、総勢十一名の範士という豪華な講師陣にワクワクする一方、プレッシャーもひしひしと感じました。

一日目

石川武夫先生の矢渡し、須田定雄・高橋範・宮田融三名の先生による一ツ的射礼に感銘を受け、いま自分が一番直したいと思っているところを、目を皿のようにして凝視するも、出るのはため息ばかり。その後受講者が二射場に別れて一手指射。寒さと緊張で思うように引けず(と心の中で言い訳をしつつ)午前の部は終了。

午後は鈴木会長の講話から、『的中にとられるな』『自分の弓を引け』『矢数をかけなければだめ』等日頃の稽古の心構えから弓道界全般にいたるまで、笑いを誘いながら話される内容に真剣に耳を傾ける。その後四射場に別れて一ツ的射礼の実習。射技指導で一日目は終了。

二日目

吉本清信・

飯島正大・佐

竹万里子・川

村光良・加藤

出五名の先生

による持的射

礼で二日目

が始まる。前日



講師による持的射礼

に続き自分の射の問題点を直すにはどうしたら良いのか、ヒントだけでも見つからないかと目を凝らすも昨日と同様出るのはため息ばかり。

一日目と道場を変え四射場に別れて持的射礼の実習、射技指導と続く。

午後もし引き続き射技指導があり、講師の先生方に一つ一つの動作から射全体のことまで様々な教えを頂き、今後稽古を続けていく上での目標と課題がいくつもできました。

最後の講評では、入場から退場まで、一つ一つの動作について、『何のために』『どのような意味があるのか』を考えながら身につけないと形だけの弓になってしまふ。基本動作は正確に(足踏みは3/5の人が正しく踏んでいない、1/3の人が大三で矢の向きが体と平行になっていない等)自然にできるようにするまで稽古しなければいけない。さらには教本をよく読んでもほしい等々厳しい指摘を受け、日ごろ

の稽古のあり方を考えさせられました。

昨年は雪の中での講習会だったようですが、今年は天候に恵まれ、寒さと緊張で疲れましたが、めったに引く機会のない中央道場と至誠館道場で二日間弓に集中でき、大変貴重で有意義な時間を持つたことに感謝しています。

三十三間堂大の全国大会に参加して

小諸支部 式段 掛川 亜弓

今年晴れの成人式を迎え、私は一月十八日三十三間堂(蓮華法院)奉納射会に参加してきました。前日よりホテルに宿泊し、朝五時に予約指定のホテルに行き、着物の着付けをしていただき、開会式の会場に向かいました。七時前、会場も開いていないのに大勢の参加者が集まっています驚いてしまいました。今年の参加者は男子約九〇〇人、女子約一〇〇〇人と有段者を含め二〇〇〇人。当日は拝観無料

で加持も開催されており、一人一人の身動きも取れないほどでした。参加者の顔ぶれを見てみると、関西の大学生の団体が多く、個人での参加は京都・大阪周辺の県の人が大勢いました。長野県からは私のほかに女子一名、男子では信州大學生が参加していました。遠くは鹿児島や北海道から訪れる人もいました。競技は大的四つ、三人立ちで十二人が同時打

ち起して一斉に引きます。順番は良いので「始め」の合図とともに自由に一手を引きました。十一時三十分まで男子、女子はその後です。私は一八九八番で控えに入った時間は、なんと午後二時近くでした。当日は空模様が悪く午後からは雨が降り出しましたが、控え所・射場ともテントが張ってあったので心配はありませんでした。射場に入ると、見ているとキとは雰囲気は違いましたが、特に緊張することもなく引くことができました。結果は二本中一本中りでした。決勝に残ることはできませんでしたが、一生に一度の良い経験ができました。

晴れ着姿の大学生を見ていると、あまり遠的の練習をして来なかった人も参加しているようで、さっぱり中りません。幸い私は、佐久市駒場の遠的場や、東御市運動公園の遠的場をお借りして、練習してこれたので感謝しています。現在専門学校に通う私は、弓については小諸商業高校時代からお世話になってお世話になっておられる小諸支部長の柳沢真一先生をはじめ、諸先生方にご指導いただいた賜物と感謝申し上げます。就職も決まり



県外勤務となり、弓からも離れることになるかも知れませんが、県内に帰ってきたときにはまた宜しくお願い致します。来年成人を迎える皆さん、来年の三十三間堂の遠的全国大会は一月十七日に開催されるそうなので、参加されてみてはいかがでしょうか。

「中野冬季百射会」便り

民野千代子

二月十五日(日) 中野市弓道場にて中野市体育協会主催第十六回中野冬季百射会が四十二名の参加者を迎え行われました。

毎年まだまだ春遠い北信濃の二月に開催されるこの射会は、お陰様で第十六回を迎える事が出来ました。

例年を振り返ると前日より大雪、また当日吹雪と寒さの日も有り心配しておりましたが、寒中には珍しく弓道日和となり一安心で皆様をお迎えする事が出来たと致しました。

年々県内外の遠方から、この寒い時期、寒稽古の成果を...と参加される方も多く、楽しく盛り上がりのある、定着した大会に成りつつあります。

近年では、国体選手の方々の参加も回を重ね一層レベルアップされ盛り上げて頂いております。

射会運びは、

参加者全員が先四十射行い、上位三十六名が引き続き一〇〇射迄行射します。成績の如何に係わらず四十射でも満足したからと自分から中断される方も居られるので、次回から初めから四十射での受付も有り、としようかとの意見も出て参りました。それと共に一日に百の射を自分と対しながら仲間と共に行射する事も別の意味が有るのかも、とも思います。



参加者全員の皆様が一射一射大切に行射されますので、私達はこの大会がより和やかに楽しめてしかも向上したものにしなければと思っております。又市内地の元の高校生が多勢積極的に矢取りの手伝いをしてくれるので有難いです。

大会結果

- 優勝 中村 宏(諏訪) 九十五中
- 二位 市川 隆光(諏訪) 九十中
- 三位 亀岡 英司(南佐久) 八十九中
- 四位 為田 祐介(上小) 八十四中
- 五位 小山健太郎(須坂) 七十七中
- 多中賞(五十中以上) 順不同
- 塩原 静雄 松沢みさ子 林 英彦
- 森山 敏広 日下裕佳子 麻田 順道

- 宮川 繁 原田 正浩 大島 勝巳
- 岡田 宏之 山崎 哲 郷道 隆志
- 武田 礼子(以上十三名)

因みに第一回からの優勝者

- 一回 古沢 金蔵 二回 古沢 金蔵
- 三回 永藤 聡 四回 池内栄久男
- 五回 大蔵 務 六回 宮阪 和久
- 七回 土屋 義雄 八回 原田 正浩
- 九回 宮川 登 十回 山岸 稔員
- 十一回 渡辺 和人 十二回 山崎 哲
- 十三回 山崎 哲 十四回 市川 隆光
- 十五回 中村 宏

この百射会は、一日休憩を入れながら、じっくり矢数を重ね、弓仲間と談笑の弓三昧です。どうぞ皆様、中野冬季百射会に参加してみませんか。早朝より道場を暖め、甘酒みそ汁お弁当用意して、御参加をお待ちしています。

尚五月三十日には、無相大師奉賛弓道大会がバラ祭と合わせて有りますのでお出掛け下さい。

全国優勝

全国遠的大会で優勝した、矢野雄也君(信大弓道部二年)の喜びのコメント

『この度、明治神宮で行われた全国遠的大会成人の部で優勝した矢野雄也です。優勝というすばらしい体験ができてとても嬉しく、得るものの多い大会となりました。大会前の遠的練習では調子の良

いわけではなかったのですが、優勝した時は自分でも驚きでした。

大会に来られていた全日本弓道連盟会長の鈴木三成範士が新年早々、人生に一度しかない新成人の記念大会で優勝できたこの幸運を今年一年の勢いにして欲しいと言葉をかけてくれました。今年はこの勢いを大切にして、さらに成長していきたいと思えます。

結果は優勝ということですが、実際の中は四射三中ということで、決して満足のものではありません。矢数の多い大会ではこの一本が勝敗を決定するかもしれない。一本の重みを再度しっかりと認識して、一本で悔しい思い、後悔することのないよう精一杯練習してまいります。

優勝できたのは、自分ひとりの力ではなく、ご指導をいただいている教士七段小林克監督、コーチの方々、一緒に弓を引き応援してくれた信大弓道部の部員のみんなへの感謝を忘れずこれからも頑張っていこうと思えます。』



私と弓道

上小支部 戸田 裕子

今、私がこうして弓道を続けているのは、弓道を通じて出会った沢山の方々のお陰です。弓道と出会っていなければ今の私はないだろう。支えて貰っているから今の私がある。

高校から始めた弓道も今年で九年目。友達付き合い添いで行った弓道班の見学で、先輩の着ていた袴姿に憧れ入部した。地元には弓道教室がある事を知り、高二から今の東御市弓道会(旧東部町弓道会)にお世話になり始めた。上小支部の諸先輩方には、様々な大会に連れて行って頂き、一層視野が広がった事で、高校では知る事の無い沢山の経験が出来た。

高校卒業間もなく、初めて受けた講習会。右も左も分らない私を連れて行って下さった先輩、講師の先生には、一対一の丁寧な指導を賜り、着物で行う襷掛けの難しさを痛感した。あの時の事は今も忘れない。

高三から受け始めた国体予選。二回目から強化選手としてお世話になった。ここで初めて合宿を体験し、沢山の人の出会ひ色々な事を学んだ。改めて弓道の楽しさを知り、難しさを知った。四回目で北信越国体を体験。その時の開催地は地元の長野県。遠的はまずまずの点数が出

せたのだが、近的がどうしても中らず泣く思いをした。その年に行われた北信越選手権も参加させて頂いた。チーム自体は良い成績だったが、個人的には大事な所で力を出しきれず、また泣く思いをした。昨年新潟で行われた北信越国体でリベンジしたかったが、遠的では暴風に勝てず、近的では気持ちが空回りし、これまで納得のいく結果を出す事が出来なかった。

「本国体は楽しい」と体験した人は言う。一度で良いから体験したい。そして納得のいく結果を出したい。その為には、日頃の練習でいかに自己統制が出来るかどうかだと言う。的中は当たり前だが、中て続けると言う事は簡単な事では無い。基本がきちんと出来ていてこその中りだと思ふからだ。もう一つ大事な事がある。それは緊張に打ち勝つ事。これは場慣れしか無いと先輩から教わった。

私の課題。それを色々な大会などで沢山の人と交流しながら一つずつ克服し、そして、いつか本国体に出場したい。弓道に出会えて本当に良かった。



弓仲間紹介

飯田市営弓道場 水曜日の仲間達

飯伊支部 原 富子

毎週水曜日、夕刻より飯田市営弓道場に近隣の弓士が集まり熱心に又、和やかに稽古をしています。十数年前、女性二人が始めたのに端を発し二人三人と仲間が増え現在に至っています。家事や仕事に追われる人達が曜日と時間を決め位置づけることによつて家庭に了解を得ることができ弓の時間を確保しやすいたことが長く続いている一因かも知れません。「弓大好き人間で弓を通して人間として成長したい!」そんな仲間達です。



きたことや各講習会等で研修されたことを丁寧な伝達して下さり一同大変感謝して学んでいます。

稽古の合間に短時間ですがミーティングの時間を設け、粗茶を伴いながら打ち合わせや情報交換を行います。コミュニケーションをはかることが仲間づくりに大切で思いを共有して絆を深めることができると思っています。

近年、弓道教室を修了した方達や、学生時代に弓道をしており社会に出たためその機会をなくしていた方、家庭に入つて中断したものの再開したいという方、又男性弓士も加わつてくださり喜ばしいことです。

審査の前等、襷がけとあわせて肌ぬぎの稽古をしたいと訪れる方もおいでになり、外に開かれた存在でありたいと思つています。どなたでも機会がございましたら是非、お立ち寄り下さい。

闘病の末、手にした「教士」

飯伊支部 荒井 清

私が弓道を始め、四十五年になります。今回、東京の特別臨時審査で教士の称号を拝受することができました。本当に嬉しいことです。

錬士を拝受してより、教士になるまで三十年かかりました。その間私には弓道があつたから、現在の自分があるのだと、心から思っております。

企業で六十才定年退職の時に、人間ドックで癌を発見し、胃の四分の三と肝臓の四分の一と大腸を二十糎程、切り継ぎ手術を受けました。その時は、もう弓道復帰はだめかと思いましたが、三年間の休み期間の後再開して、二年後六段を審査して、昇段することができました。

それから十七年かかって今回の審査となり、再入院し腸閉塞は簡単になおつたものの、右腎臓に腫瘍を見付け摘出手術を受けました。今度こそ弓道に復帰することができないのではないかと心配しましたが、

三ヶ月の休みで復帰することが



きました。今度の昇格を本当に喜んでくれた人は自分より家族ではないかと思っております。

これからも先生方や弓友の方々のご指導と励ましがあつたからと思ひ、心より感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の特別臨時審査について、長野県連で特別に講習会を実施して頂き、特に配慮について息合いによる行射の運行等、詳細に指導を受けたことにより、本番では今迄の審査時のような緊張感がなく、講習会で教えられた射が自分ながらにできたような気持ちです。ありがたいことでした。これ一偏に、県連会長始め指導部の先生方のご指導の賜物と深く深く感謝しております。

今後は教士を拝受したことを肝に銘じて、日頃の修練に心掛け、弓道の理念であり修練目標である四項目、

- 一、射法、射技の研修
- 二、礼に即した体配の修練
- 三、射品、射格の向上
- 四、人間完成の必要

を修練目標として、日頃の自分修練はもちろんのこと、今後の指導者として後輩の指導に努めて行く覚悟です。

来年は八十才台になりますが、体力の続かざり癌とも戦いながら、連盟の主催する講習会や大会等に積極的に参加し正しい知識を身に付け指導者として、

青少年の育成や、高等学校の弓道部の育成、また支部主催による弓道教室にも進んで参加し、老骨にむち打ち、今後何年弓道にたざさわられるか分りませんが、少しなりとも弓道の発展のために、微力ながら尽くすよう頑張つて参りたいと思つております。

教士の称号を拝受して

飯伊支部 伊藤 晋

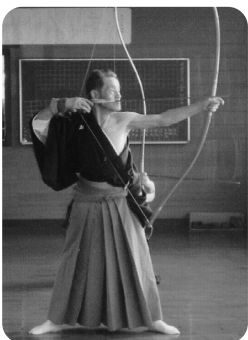
此度平成二十年十二月二十一日に、明治神宮全日本弓道連盟中央道場で行はれた「東京」特別臨時審査に於いて、教士候補者に合格し、直に論文を提出し、教士の称号授与され、謹んで拝受させて戴きました。これ偏に永年に亘り御指導下さつた多くの先生からの賜で、愚老の小学生にとりましては身に余る榮譽にて、唯々感無量、身の締まる思いを致しております。私事に県弓連機関紙の紙面を割愛して戴くのは如何と思いましたが、広報部よりのお勧めに従い報告させていただきます。

私こと弓道に親しみ、及ばず乍らも修行を続けて参つた者にとりましては、せめて一生の内に一度は到達致したい大きな目標の最たるものであります。徒に年月をかけても遅遅として技は進まず、思考錯誤を繰り返して参りましたが、錬士を頂いた頃より県の範士の先生方の御指導を戴けるようになり、機会ある毎に受講に勤め、回を重ねつつ、個人講評には特に留意して、一つ一つ矯正課題に留意して何とか型を整へ、今年五月京都に於いて一次の通過を頂いて以来、秋の中央審査に向けての意気込みを俱にする盟友教名が一つになって、体配は体で覚えるものとして射禮研修を一夏に亘り修練し続けて、何とか先が見えて来たかと思はれる程に懸命な努力を俱にした盟友の同士に心からの感謝をしております。

殊に十二月に入って実施していただいた県弓連指導部主催の講習に於いて、講師の先生から、「体配は先ず基本の足もとから」との最も大切な御指摘を心に刻み、本番に臨むことができ、場の掌握と動作に憶することなく演武できました事が好結果に繋がつて、荒井清先生と俱共合格の榮譽をいただくことができました。

これからは更に自己の修養に努めて、足らざるを補い、指導力を身につけて弓道発展のため、歳のごときは先ず預けて御恩返しのできる限りのお手伝いを心がけ、弓道を楽しんで参りたいと思ひます。

程を御願ひ申し上げます。





◆第8回東日本高等学校弓道大会

- 12月25〜26日／横須賀市
- ▽女子団体 (三人制)
- 第3位 松本深志高等学校

◆中日本高等学校弓道大会

- 12月25〜26日／岐阜市
- ▽女子団体
- 第5位 長野日大高等学校

◆第9回全国弓道遠的大会「新成人記念大会」

- 1月10日／全弓道中央道場
- ▽成人男子の部
- 優勝 矢野裕也 (信大2年)

◆春季北信越学生弓道大会

- 3月5〜7日／福井県立武道館
- ▽男子団体
- 優勝 信大A (2年ぶり27回目)
- 2位 信大B

▽女子団体

- 優勝 信大A (4年ぶり18回目)
- 2位 信大B

▽男子個人

- 優勝 濱 隆彦 (教育2年)
- 2位 石原 愛 (農学3年)
- 3位 田倉有莉 (経済2年)

▽女子個人

- ◆志峰館百射会 (1月25日)
- 1位 82中 笹岡達也
- 2位 63中 春日 貴
- 3位 56中 鈴木清重

◆東伊那百射会 (2月8日)

- 1位 73中 前沢秀夫
- 2位 66中 山岸稔員
- 3位 62中 湯沢敬二
- 4位 58中 水田明美
- 5位 54中 竹村政秋

◆飯島弓友会百射会 (2月11日)

- 1位 91中 市川隆光
- 2位 89中 亀岡英司
- 3位 89中 中村 宏
- 4位 76中 高仲成人
- 5位 76中 笹岡達也

◆駒ヶ根百射会 (2月22日)

- 1位 94中 中村 宏
- 2位 94中 市川隆光
- 3位 83中 山田静香
- 4位 79中 関 正道
- 5位 79中 亀岡英司

◆全国高校選抜大会

- 3月20〜22日／静岡県藤枝市
- ▽男子団体予選 (12射)
- 7中 上田高校 (落選)
- ▽女子団体予選 (12射)
- 9中 岡谷南高校 (決勝進出)
- ▽女子団体決勝トーナメント
- 一回戦 祐誠高校 (福岡) に
- 6中対3中にて敗退
- ▽男子個人予選 (4射)
- 3中 今村 魁 (岡谷南) 決勝へ
- 4中 平澤一平 (飯田風越) 決勝へ
- ▽男子個人決勝 (射詰競射)
- 2位 今村 魁 (岡谷南)

▽女子個人予選 (4射)

- 2中 田中理絵 (塩尻志学館) 落選
- 3中 竹内 瞳 (長野吉田) 通過
- ▽女子個人決勝 (射詰競射)
- 竹内 入賞せず

審査合格者

平成20年度推薦 (2月15日)

- ▽錬士の部 廣田 義照 (木曾)
- 大山 孝吉 (長野)

講習会報告

◆指導力向上指導者講習会受講者名◆

2月7日〜8日／全弓道中央道場

- 教士七段 外 蘭 公 毅
- 教士七段 杉 田 博

県弓連 HP が移転しました

県弓連HPアドレスが下記に移転し、装いを新たに稼働を始めました。ご利用下さい。

URL ▶▶▶ <http://www.kyudo-nagano.jp>

Mail ▶▶▶ 総務部 (県連へのお問い合わせ先)
▶▶▶ info@kyudo-nagano.jp

弓道なごの編集 (身近なニュースをお知らせ下さい)
▶▶▶ editor@kyudo-nagano.jp

大会結果報告 (大会結果をお知らせ下さい)
▶▶▶ results@kyudo-nagano.jp

ホームページ担当 (HPに関するお問い合わせ先)
▶▶▶ webmaster@kyudo-nagano.jp

「つづら」

一月の評議員会で、任期満了にともなう役員改選が行われ、山川会長のもとで二期目がスタートしました。広報部でも異動があり、平野英孝(前)部長が競技部長に転進され、後任に征矢憲前副会長(上伊那)を迎えました。

今年度の広報部の主な活動は、この「弓道なごの」を年四回(四月・七月・十月・一月)発行すること、ホームページの作成です。近年、ホームページへのアクセスがとみに増えて、この面での重みを増してきました。

部員構成も小異動がありました。が、内容の充実とともに、読みやすく親しみやすい紙面づくりにむけて一同気持ちを新にしています。会員からの寄稿や各地区の話題性のある行事などの投稿も歓迎しています。よろしくご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

従来、この欄を「編集後記」としてきましたが、編集の都合で「後記」とするのは無理があり、本号から「ひとりごと」を書きまします。僭越ながら、ひとりごとを聞いていただきたいと思えます。

(松澤)